

明日は落語鑑賞会

11月11日(金)、午後2時より、角館中学校体育館にて、落語鑑賞会を行います。

今回の演者は、柳家さん若さんという神代中学校出身の方です。

ネットで彼の経歴を調べると次のようになっていました。

柳家さん若：本名、山田耕一郎（やまだこういちろう）；
生年月日：1969年3月24日；
出身地：秋田県仙北郡（現仙北市田沢湖神代）；
出囃子：蟹がね；紋：三ツ柏。



芸歴：2003(平成15)年5月、柳家さん喬に入門 前座名「さん作」。
2007(平成19)年2月、二ツ目昇進「さん若」と改名。

2003年入門の同期、古今亭文菊、柳家ろべえ・三遊亭時松・鈴々舎馬るこ・桂三木男・柳亭こみち・古今亭志ん八・古今亭駒次・柳家さん若・柳家花ん謝の10人で、「TEN」というユニットを組んでいる。

2014(平成26)年「第25回北とびあ若手落語家競演会」北とびあ大賞。

なぜ、さん若さんを私(校長)が知っているか、というと、次のことがありました。

私が西明寺小学校に勤務したのが平成19年。ちょうど、さん若さんが二ツ目に昇進したあたりです。彼は、神代中学校出身で、そのときの西明寺小学校の校務員の方が、さん若さんと同級生だったのです。それで、校務員の方から、落語を子どもたちにいかがですか、と言われ、本物の落語を聞くことができる会を開催したのがきっかけでした。それ以降、さん若さんは、わらび座(さん若さんのお父さんがわらび座出身)で、昨年まで7回の独演会を行っています。

明日は、どんな演目で私たちを魅了してくれるのでしょうか。本物の落語を身近な場所で聞くことができる幸せを味わいたいと思います。

保護者の皆様で、希望の方がいらっしゃいましたら、一般のお客様もおりますので、ご一報ください。お待ちしております。

中学生防火防災弁論大会 努力賞

11月9日(水)、平成28年度秋田県消防協会大仙仙北美郷支部主催の「中学生防火防災弁論大会」

がありました。本校から、2年生の大澤ゆき乃さんが出場し、努力賞を得ました。この機会に、大澤さんの作文を読んで、防火防災に努めたいと思いますので、大澤さんの発表作文を掲載します。

「父の姿から学んだこと」

角館中学校 二年 大澤ゆき乃
授業中、私は反射的に窓の外を見てしまう時があります。それは、消防車のサイレンの音にどうしても反応してしまうのです。そして、心の中で「ああ、また、どこかで火事かあ」とつぶやいてしまいます。

私の父は消防士です。

あの東日本大震災の時も人命救助や瓦礫(がれき)の撤去のために駆り出されました。父はあまりの悲惨な光景に言葉を失ったそうです。あれから六年近く経ちました。「天災は忘れた頃にやってくる」と言われます。忘れかけていた災害への危機感と十分な備えをしておくことがあの日の教訓を生かすことにつながると思います。

さて、これから、私たちの住んでいる東北地方に厳しい寒さがやってきます。当然暖房器具などを使用する機会が多くなります。

ある時、父が話してくれたことがありました。「火は人間にとってはなくてはならないもの。しかし、一つ間違えば、恐ろしいものになってしまうんだよ。」と。

確かに火は私たちには長い冬を越すために体も心も暖めてくれる大切な存在です。しかし、ちょっとした油断が家や財産、そして、命までも奪ってしまうのです。

私は火事の現場を見たことはありませんが、ときどきテレビのニュースで火災現場の映像が流れる時があります。燃えさかる真っ赤な炎と黒い煙が家屋を覆い尽くす光景はまるで悪魔のように見え、私は恐怖に襲われます。あんな怖い現場に父も行かなければならない時があるのかと思うと心配で心が震えてきます。

昨年冬、私たちの学校でスキー教室が行われました。その日、父は学校からの依頼を受け、スキーのインストラクターとして参加することになっていました。しかし、当日、ある場所で火災が発生し、父は現場に向かいました。

正直、小さい頃は、家庭で予定を立てても突然の父の都合で中止になるときがあり、「嫌だなあ」と不満を抱いたことがありましたが、中学生になった今では父の仕事をだいぶ理解できるようになりました。

世の中にはたくさんの仕事があります。どの職種も大切です。しかし、父はその中で他の仕

事より危険な場面に遭遇する可能性のある「消防士」を選びました。人の命や財産を守る大事な仕事だと思います。

父は外出する時、「火の元をしっかりと確認するんだよ」と言います。そして、「消防士の家から火を出せばシャレにならないからな」と冗談とも本気とも思えることを言います。

昨年の総出火件数は全国で39,046件だそうです。これはおよそ一日に107件、13分に一件火災が発生していることとなります。その原因のほとんどが、たばこの不始末や火の元の確認を怠ったためなど人間の不注意による火災なのです。地震や水害などの自然災害は人間の力ではどうすることもできない脅威かもしれませんが、しかし、人災とも言える火災は人間の力で防ぐことができます。一番の消防は火を消すことではなく火災を起こさないことなのです。

こうしてる今でも日本のどこかでサイレンを鳴り響かせながら、消防車が出動しているのかもしれない。そして、消防士の方々が果敢にその現場に向かっているのです。

自然災害の脅威、人間の油断から起きる大きな代償。そして、その人災である火災を防ぐことができるのも人間だということ。人が困っているときに勇気をもって行動すること。たくさんのお話を私は父の姿から学びました。



1年生 宿泊体験 終わる

11月8日(火)～9日(水)の1泊2日で、1年生の職場体験・宿泊体験がありました。

初日は、午前中におのおの体験場所に行きました。学校に送られてくる画像から生徒の生き生きとした表情を読み取ることができました。



午後は、昼食後に博物館へ向かいました。「ホンモノ体験」がテーマの一つとなっている今回の体験学習で、学芸員の方から説明を聞いたり、自然界のダイオウイカやマンモスの剥製(はくせい)に、感動の声を漏らしたそうです。



ユースパルに入ってから、建物の使い方、そして夕食、その日の振り返りをして就寝しました。

二日目は、起床、朝食の後に、体育館でP A (プロジェクトアドベンチャー)を行いました。このP Aのねらいは、インターネットの説明は次のとおりです。

◇P Aとは

P Aは、「新しい自分を発見」し、「自分をより好きになり」、「みんなと交わることの楽しさを学ぶ」ことを体験を通して学んでいく体験学習です。



◇P Aのプログラムの基本

体験学習をより効果的にするために、次のような流れでP Aを組み立てていきます。

- 体験……実際にある活動を体験します。
- 振り返り…体験してみて思ったことや、感じたことなどを話し合います。
- 一般化……なぜその活動は楽しかったのか、何がおもしろくなかったのか、など、振り返りででてきたことの理由を考えながら一般化していきます。
- 応用……一般化したことを元に、もう一度その活動をやってみたり、別の活動に応用します。

再び新しい活動に入り、体験→振り返り→一般化→応用→……と繰り返していきます。

一つのグループである活動を成し遂げる、ということで、生徒たちの間に達成感が生まれたようです。

午後からは秋田県立美術館を訪問しました。藤田嗣治の描いた「秋田の行事」に全員が感動したそうです。そしてその中の「かまくら」に描かれている少女が戸沢歌子さんと栄子さんという仙北市出身の女性たちで、このお話で、この大きな絵が生徒の身近に感じられるものとなったそうです。藤田嗣治が仙北市の舞踊、少女に感動したそのままだが描かれていることを知ったそうです。

帰宅時には途中大雪で大変でしたが、無事に帰校できました。1年生の皆さんは、次の活動に、この二日間のホンモノ体験感動をつなげていってほしいと思います。

◎ 全県中学生剣道大会 女子 第5位

11月3日(県立武道館)

1回戦 角館○1-1の後代表戦で勝利●城南
2回戦 角館●0-4○泉

◎ 第51回県南新人剣道大会兼大曲南中学校招待剣道大会 第3位 11月5日

1回戦 角館・横手南○4-1●横手明峰
2回戦 角館・横手南●2-3○湯沢北

◎ 第79回秋田書道展 入賞 入選者 11月5日

・半紙 中学生の部

1年生

二等 佐々木美祐さん

三等 木村虎太郎さん

褒状 鈴木皐太さん、大波昇太郎さん

2年生

褒状 黒澤伶菜さん

3年生

三等 藤原瑠南さん

褒状 鈴木天さん

◎ 中学生防火防災弁論大会 努力賞 11月10日 大澤ゆき乃 さん(2年生)